公私雜報

第十三號

定價一匁

宋齋書刻

西垣文庫 特
文庫10
7290
13

特 文庫10
7290
13

伏稟

迷子　欠落　落物　ゑろひ物　盗まれ

及び諸賣もの等ゝ廣く世に弘め或ゝ
問ゝ便りに得たきのみ〳〵少しも遠慮ふ
く其もよりくの書林又ゝ繪草子屋ゝ事が〳〵
を委しく書ゝるしゝ遣ゝしてゝ出版ゝ速に
出板しゝ四方ゝ告ぎ知らせ申ゝ願くゝ

辰四月

公私雜報會社

東京都立中央図書館

公私雜報第十三號　慶應四年五月十五日

○横濱新聞「タイムス」第四百十五號抄

出

アビシニー戰爭平定の事

第四月九日我三月十七日バサロトヤ報

告

明日ゝ我英軍進んでメグタラ（アビシニの府）の地を
攻んとゝ此府ゝ兼て思ひしよりも要害甚堅固に
して尤恐るべきの國柄なれば依ゝ茲に三日滯陣

し諸軍の後を追て待合せ糧食の不足を集め
且ゼオドルへ降伏の事を申送りしに遂に其答
形さよりて軍議弥一決して速に師を進むる事
とあるべし

同第十四日　メグダラより報告

第十日　我三明メグダラの前に於て我英兵とア
ビシニーの兵と一戦なりく敵兵散々に打敗ら
る此日彼の死傷夥しく味方の手負い僅に廿人
に満たず○翌十一日曾て彼方へ捕れたる歐
人を尽く送て帰せる然れども我方より送る

る事ども承知せば更に降伏の色を現す事ふ
し但猶決答を為さためる二十四時の猶豫を許
せり

叛王ゼオドルの軍勢い去る十日の大敗なく勢
甚た弱りたり且又セレシの地に於て其頭分若
十人并兵卒數千人兵器を抛ち降参を茲に於て
ゼオドルハ衆と共にメグダラに退き猶残りた
る忠義の士と決死防戦籠城せり依て英軍い次
第に繰て詰り昨十三日城下に進ミアルムスト
ロング砲モルタル砲并烽火臺等の備を設け一

擧て之を陷いるゝ事此度メグダラの一番乘い
手際も劇けしゝ事なし王ゼオドルい其地を去
らんとする頻に防き戰ひしゝ其勢ひ遂に尽き亂戰
の中に討死せる則如此にして亞弗利加地方平
定に至りしゝ英兵遠かゝに引上くべし但此
度の分捕物い大砲三十挺外に臼砲數挺なりと云

○

英國の太子其妃と共に第四月廿四日我四月二日に
アイルランドを出立せらるゝ此度の巡幸い
萬端都合宜しく諸方の饗應(モテナシ)も叮嚀に送迎の

禮も亦格別なりしと
日本及び支那在留のコンシュル館取立の入用下
院に於て評議ありしに五萬九千五百廿ポンド
ステルリングを差出すべしと同意を中にて不
承知の者もありしが遂に其議に決しぬ
曾て佛蘭西へ留學としては越し相成居い德川
民部太輔殿今般京師より為召近日御帰國相
成べしと云
方今横濱の吉原賣女盛んにして其數凡そ千
二百人ばかりなり此程英の在留兵卒等の遊所を

訪ふ〻〻弐禁ぜんとの評議區々形を
大坂よりの報告は神戸邊い西洋人盛に移住し
日本人も追〻集まる〻〻羣居を為せり併し大坂の
賀易いまゞ閉(トザ)ると長崎箱舘の光景へ又論を
まつに足らじ

○閏四月六日軍防局へ御沙汰の寫

此度徳川□□降伏に及ひい慶殘賊らを野心を
逞しい趣然るに攝海の義い近畿樞要の土地衆
庶輻湊の都會に付萬一賊船衝突し人民危難の
地に立到りいてを不容易次第に付深く歎　思

食いよりて此度　還幸(ミユキ)為在い後い猶更防禦
向一下際嚴重に相備へ非常の戒不懈人民安堵各
生業を安しい様厚く取締可致旨更に　仰出さ
れい事

閏四月

○或(ル)宮家の重臣主君への建白書

夫れ祖先為を所なりて子孫必ら〻守る所なり
故に上下輯睦相持しを遂に國家磐結固膠の勢
と為し數百年の久を保つに至る豈偶然ならん
や抑徳川氏一時失措

皇愛を失ふ近日の如く遂ゝ朝敵の名を負ふに
至るといへども祖先の遺澤民心を淪浹し奉命
未だ尽きざる所あり則頼ゝ以て興復を計るも亦
難かゝざるべきを古より關東い勁強武を用もる
の地と称ゝ況んや方今海陸の養兵其幾萬ふる
を知らず海軍を督ゝ勝安房矢多堀の如き
りの行ゝ陸軍を率ゆるゝ藤澤志摩江川等あり
其士卒一度奮呼して起るや一以て百ゝ當るべ
し之ゝ加ふるゝ又旗下數萬の壮士あり太平
の久き柔弱ゝ習慣ゝいへども君の為ゝ決志

險ゝ據ゝ家の為ゝ死を甘じ城を守る時い百萬
の王師之ゝ攻るも容易ゝ拔ぬがたきる事必
然ちゝ豊太閤天下の兵を帥ひて小田原を囲ミ
不拔りの數月鋒勢一度衰ふるゝ至ゝ今
朝廷豊太閤の兵ゝ徳川氏豊北條の比ゝあ
んや若し□□一旦兵を動し譜代恩顧の士を募
ゝて王師ゝ向ひ抗戦ゝ至らば戦の勝敗
のミちゝ
皇家の御盛衰且恐ゝ
聖體の御安危も計ゝ難く日夜憂苦悲歎罷在い

何卒御上にも此段深く御勘考被為在諭安の詔を下し給まを東下の令を止為止りく治國平天下の御計座い様仕度此段奉懇禱い恐誠惶謹言

辰三月

臣　某